

増毛町での再会

三周年記念セールが終了して二週間後、今年初めての完全オフの二日間がありました。

「久しぶりに、遠出しよるか？」ということになり、行き先は増毛町に決定。なぜ増毛町かというと、実は二〇〇二年に、この町出身のNさんという八十二歳の女性が作った歌詞に曲を付けてCDを作ったことがありました。

CD制作に挑む

曲名は、六十年連れ添った夫婦の情愛をつづった「ふたりで乾杯」と、道ならぬ恋をテーマにした「赤い吊（つ）り橋」。写真でしか見たことのなかった、増毛に実在するその「赤い吊り橋」を、夫婦共々一度見ておきたかったのです。

増毛に到着。本間酒造で試飲をして、甘エビ丼を食べ、高倉健主演の「駅」に登場した今は観光案内所になっている「風待食堂」に寄って。そう、「風待食堂」に寄って、思いがけない再会をしてしまいました。

健さんの写真パネルを十分堪能した後、町の特産品が納められているガラスケースを覗く（のぞく）と、何と「かのCD」が置かれていたのです。「ねえ、あるよ。あるよ。私たちのCDあるよ」「なに？ あっ！ 本」と、驚き、興奮しまく

る二人。観光案内所のご婦人に聞けば、

「売れたんですよ。あと三枚残ってますけど」

とのこと。冷静に考えれば、作詞者のNさんの出身地なのだから、あっても不思議のないことなのかもしれないが、思い掛けないことだったので驚きで、感激でした。

「花風」が下宿を始めた二〇〇一年は、思い返すと「思えば叶（かな）うこともあ

った歌詞に曲を付けて、CDを制作しようとしたことでした。



NPO法人在宅生活支援サービスホーム花風

木村美和子理事長

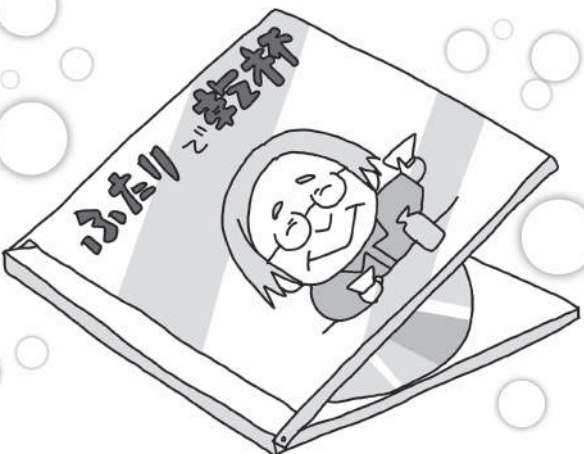
せてもらったのはNさんと亡くなったご主人のことでつづった詞でした。夫婦や人生というものをしみじみと考えさせてくれる、まさに演歌の歌詞。

時計台で、コンサート

余談はさておいて、試行錯誤の末に歌詞に曲が付き、編曲者を探していたところ、ライブラリーさんに歌ってもらったの」

それを聞いた私は、それを聞いて、歌ってみたいよ。それが、CDにしよう。それと、即座に提案しま

「曲をつけて、歌ってみたいよ。それが、CDにしよう。それと、即座に提案しま



イラスト・木村玲

よ。木の温（ぬくもり）が何とも言えなくてね。雰囲気も良かったことでしたが、話を聞いた途端、「します」と私は答えていました。

同じ日の夜「木村家家族会議」を開きました。議題は

大ヒット曲「白い冬」の作詞者だということが判明）

工藤さんは大変親切な方で、今と変わらないうつも慌ただしくしている私を思い遣ってトチームを作ろう」

に足を運んでくれました。歌い手は誰にするのか？ どうやって販売したのか？

花田屋繁盛記

連載28

人と人がつながって

「目も足も悪いので、頭の中で演歌の歌詞を書いてます」

「本気ですか？」と半信半疑のNさんでしたが、私は揺るぎなく本気でした。

早速、スタッフの中で、大学で音楽を専攻していた女性を作曲家に任命しました。ただ、彼女の専攻はクラシックなので、苦労に